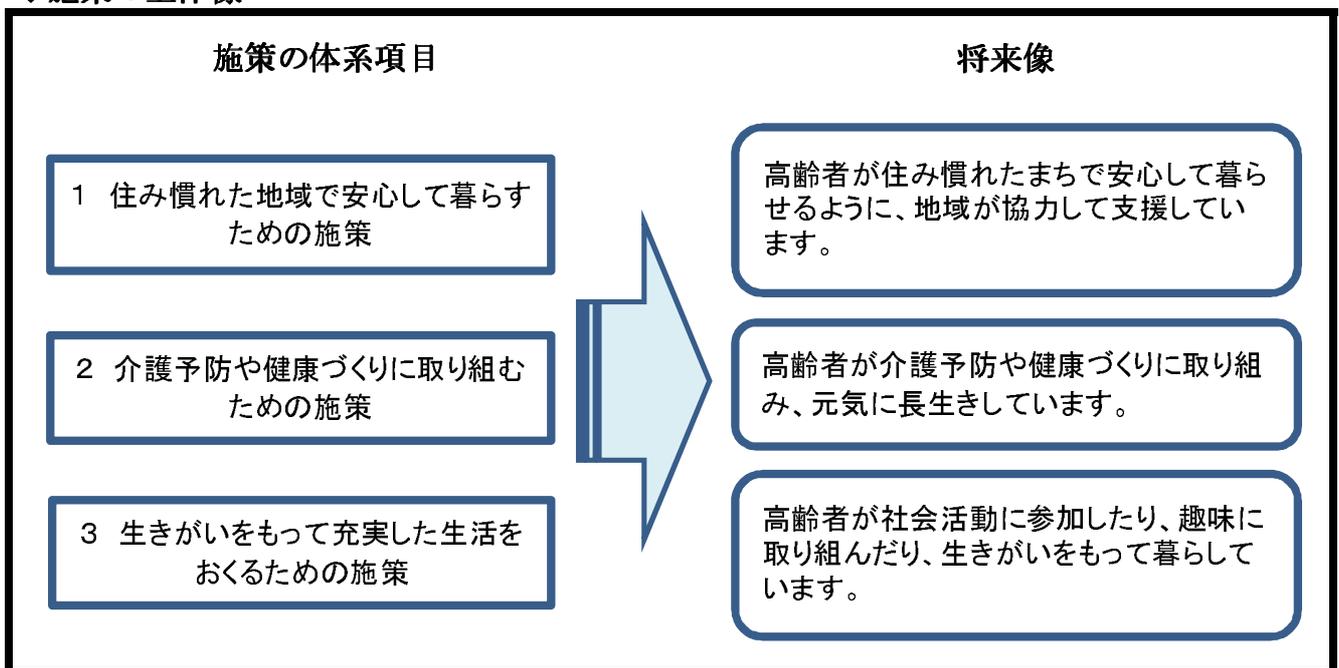


施策評価シート (平成30年度評価実施)	担当 部課名	市民福祉部 長寿課	関連 部課名	市民福祉部 福祉課
-------------------------	-----------	--------------	-----------	--------------

◆第四次蒲郡市総合計画(2011～2020)

施策名	高齢者支援
基本目標	笑顔で安心して暮らせるまちづくり【健康・福祉】
施策の説明	高齢者が住み慣れたまちで安心して元気に暮らせるように、在宅福祉サービスの充実や、家族介護の支援、地域福祉活動の充実、介護予防や健康づくり、就労支援や生きがいづくり支援、社会活動参加支援などの取組を推進します。

◆施策の全体像

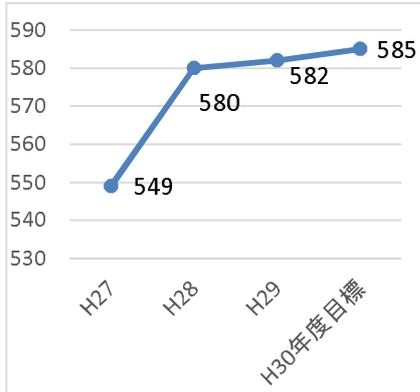


◆主要事業に係る具体化した取組み実績(括弧内は単位)

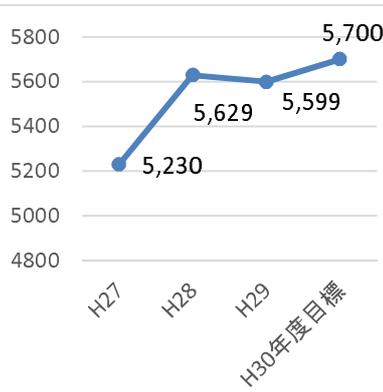
事業名		高齢者のいきいの場充実事業																															
1	高齢者のいきいの場(グループ)	集会所等の活用(箇所)																															
	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30年度目標</td></tr> <tr><th>人数</th><td>94</td><td>106</td><td>115</td><td>125</td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H30年度目標	人数	94	106	115	125	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30年度目標</td></tr> <tr><th>箇所数</th><td>32</td><td>40</td><td>46</td><td>50</td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H30年度目標	箇所数	32	40	46	50	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29年度目標</td></tr> <tr><th>利用率</th><td>0.8</td><td>0.9</td><td>1.0</td><td>1.1</td></tr> </table>	年度	H26	H27	H28	H29年度目標	利用率	0.8	0.9	1.0	1.1
	年度	H27	H28	H29	H30年度目標																												
人数	94	106	115	125																													
年度	H27	H28	H29	H30年度目標																													
箇所数	32	40	46	50																													
年度	H26	H27	H28	H29年度目標																													
利用率	0.8	0.9	1.0	1.1																													
担当者評価																																	
<p>高齢者が住み慣れたまちで安心して元気に暮らせるように、地域が協力して支援する姿として、高齢者のいきいの場の充実を取り組み指標とした。高齢者が歩いていける場所で運動やおしゃべりなど交流活動が活発になることで、地域の関係性が深まり、見守りや支え合いの活動につながりやすくなる。市内に96箇所ある地区集会所のうち活用が積極的にされていない集会所の活用のため、総代会等地域への働きかけを行った。また、民間施設の利用を促進するため、施設利用費用の助成制度創設により、高齢者のいきいの場の充実に努めた。</p>																																	
事業名		介護予防事業の活用																															
2	介護予防教室の参加(延人数)	自主的な継続参加意欲あり(%)	要介護認定率(10月1日)(%)																														
	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H32年度目標</td></tr> <tr><th>延人数</th><td>5,552</td><td>5,562</td><td>5,836</td><td>6,000</td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H32年度目標	延人数	5,552	5,562	5,836	6,000	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H32年度目標</td></tr> <tr><th>割合(%)</th><td>59.9</td><td>79.5</td><td>84.4</td><td>90</td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H32年度目標	割合(%)	59.9	79.5	84.4	90	<table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H32年度目標</td></tr> <tr><th>認定率(%)</th><td>14.8</td><td>14.8</td><td>15.1</td><td>15.2</td></tr> </table>	年度	H27	H28	H29	H32年度目標	認定率(%)	14.8	14.8	15.1	15.2
	年度	H27	H28	H29	H32年度目標																												
延人数	5,552	5,562	5,836	6,000																													
年度	H27	H28	H29	H32年度目標																													
割合(%)	59.9	79.5	84.4	90																													
年度	H27	H28	H29	H32年度目標																													
認定率(%)	14.8	14.8	15.1	15.2																													
担当者評価																																	
<p>介護予防教室の参加をきっかけに、継続的に運動や交流活動を続ける人を増やしていくことが元気高齢者を増やすためには大切である。H29年度は介護予防・日常生活支援総合事業が開始し、地域型通所サービスや短期集中通所サービスなど、多様な主体による幅広い枠組みができたため、参加は増加している。又、自主的な継続参加意欲は、ロコモ予防体操教室などの継続参加意欲が高くなり、昨年度より上昇した。要介護認定率は、後期高齢者の割合が年々増えているため増加しているが、今後も介護予防事業の活用により、介護保険認定率を最小限に抑えていく。</p>																																	

シルバー人材センター事業

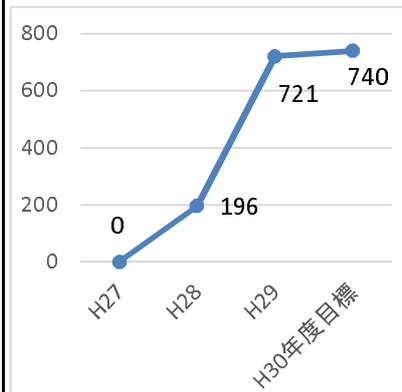
年平均登録会員数(人)



受託件数(件)



ワンコイン受託件数(コイン)



3

担当者評価

新規会員獲得のための入会説明会や技術講習会の開催など、シルバー人材センター事務局の積極的な働きかけにより、会員登録数は増加傾向にある。会員の入会動機をみると、健康維持や生きがい、仲間づくりを目的としている人が約4割を占めており、生涯現役と社会参加を求めて入会する人が多い。昨年度大幅に増加した受託件数は今年度は微減となったが、シルバー人材センターの業務は市民に浸透しており、リピーターも多い。また、平成28年度7月から始まった「ワンコインお助けサービス事業」についても、順調に受託件数を伸ばしており、公的サービスでは対応できないちょっとした困りごとに助けを必要としている高齢者のニーズに合致したサービスとして定着してきている。

◆施策の現状分析(指標の推移から見た現状分析)

指標の推移		指標の説明(設定理由)															
1	<p>健康寿命(歳(男性● 女性■))</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>男性(●)</th> <th>女性(■)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27(H25)</td> <td>83.57</td> <td>78.74</td> </tr> <tr> <td>H28(H26)</td> <td>84.04</td> <td>79.15</td> </tr> <tr> <td>H29(H27)</td> <td>84.33</td> <td>79.53</td> </tr> <tr> <td>H32年度目標</td> <td>85</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	年度	男性(●)	女性(■)	H27(H25)	83.57	78.74	H28(H26)	84.04	79.15	H29(H27)	84.33	79.53	H32年度目標	85	80	<p>健康寿命とは、「健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されている。 高齢者が笑顔で明るく暮らすためには、日常生活に制限されることなく過ごせる期間をできる限り長くすることが目標達成につながると考え「健康寿命」を指標に用いた。平均余命から健康寿命を差し引いた「介護が必要となる期間」は、平成25年男性1.21年、女性2.53年、平成26年男性1.14年、女性2.46年、平成27年男性1.16年、女性2.38年と男性は、前年に比較して微増しているが、経年的に見ると男女共に介護を必要とする期間は短くなっている。 (健康寿命の算定方法として、蒲郡市では、「日常生活動作が自立している期間の平均」について厚生労働科学研究班による「健康寿命の算出プログラム」を用いて算出している。各年男女別年齢階級別人口、死亡数、要介護2～5の人数を用いて算出した結果である。年齢階級別死亡数の確定値は28年が最新であり、人口規模が13万人未満の当市では、対象年次とその前後をあわせた3年間の死亡数を入れる必要があるため、健康寿命は2年前の数値となる。)</p>
	年度	男性(●)	女性(■)														
H27(H25)	83.57	78.74															
H28(H26)	84.04	79.15															
H29(H27)	84.33	79.53															
H32年度目標	85	80															
指標の分析	<p>平成25年以降の健康寿命は、男女共に伸びている。また、「介護が必要となる期間」も経年的に見ると男女共に年々短くなっている。今後も、高齢者の運動機能、口腔機能、栄養管理の向上を目指す介護予防に積極的に取り組める地域づくりをしていくことが重要である。</p>																
2	<p>一人あたりの就業日数(日)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>就業日数(日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>129</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>126</td> </tr> <tr> <td>H32年度目標</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>	年度	就業日数(日)	H27	125	H28	129	H29	126	H32年度目標	130	<p>就業により社会参加の機会が増え、また体を動かすことが健康維持にもつながり、生き生きと生活できるようになる。 就業延日数÷就業延人数＝一人あたりの就業日数 (請負と派遣を合わせた数) H27: 69,345日÷553人≒125.4日 H28: 70,537日÷548人≒128.7日 H29: 70,241日÷558人≒125.9日 H32目標: 74,540日÷575人≒129.6日</p>					
	年度	就業日数(日)															
H27	125																
H28	129																
H29	126																
H32年度目標	130																
指標の分析	<p>会員一人あたりの就業日数はほぼ横ばいではあるが、意欲のある会員の就業機会は確保されている。高齢者が自分の能力を生かして、できる範囲の仕事をする事は、健康増進、生きがいをもった生活につながる。</p>																

◆市民等からの参考意見等

市民サービス向上に向けた意見等
<p>地域でサロン等を支えるボランティア(世話役)も高齢化が進んで、その方が出来なくなったりなくなってしまいうグループも心配されている。世話役を育てるような取り組みをしていく必要があるのではないか。</p>

◆今後の方針

No.	課題		今後の取組み
	件名	内容	
1	高齢者の孤立、閉じこもり	高齢者の増加と高齢者の一人暮らし世帯、高齢者世帯の増加が一層進んでいる状況の中、地域の交流が希薄となり孤立化、閉じこもりが問題となっている。	生活支援体制整備事業により、地域での支え合いの仕組みづくりとして、協議体(地域支え合いの話し合う場)を市内の公民館地区で展開し、各地域の支え合い活動(交流の場、サロン等の充実や助け合い活動等)について、住民主体で考えてもらう。この協議体と対となる仕組みとして、生活支援コーディネーターを配置し、協議体や地域の支え合い活動の支援を行う。
2	健康寿命の延伸	住民が自ら自分の健康や体力に関心を持ち、介護予防や健康づくりに積極的かつ継続的に取り組もうとする人が増えるような働きかけを行う	参加者が自分の身体に関心を持ち、今後健康づくりを継続しようと思えるような介護予防教室を実施し、教室終了後も継続的な活動に取り組もうとする人が増えるよう働きかける 地域の健康づくりや介護予防の運動グループの情報提供を行い、地域での自主的な介護予防の取り組みを促していく
3	会員数及び受託件数の増加	働く意欲のある高齢者が自分の能力を生かして、できる範囲の仕事をする事は、健康増進、生きがいをもった生活につながり、ひいては自身の介護予防につながる。	企業への派遣やワンコインお助けサービス事業の受託件数も順調に伸びていることから、今後も就業開拓や事業の周知などを積極的に進める。また、技術講習会を開催し、会員の技術向上を図ることで、就業機会の増加に努める。入会説明会についても引き続き積極的に実施し、会員数を増やしていく。
4			

◆施策評価

構成事業の進捗状況	A:目標達成に向けて計画どおり進行している。
施策の進め方	A:現在の取り組みを継続する。
課長評価	<p>①「高齢者が住みなれたまちで安心して暮らせるように、地域が協力して支援しています。」については、高齢者いこいの場グループ数、集会場等の活動箇所数が増加し、活性化しつつある。活動ボランティア団体の世話役の育成が課題として捉え、継続できる仕組みを検討する必要がある。また、高齢者の孤立や閉じこもりを抑制するために、生活支援体制整備事業を重点的に取り組む。市内11区域に協議体を設置し、社会福祉協議会の生活支援コーディネーターを中心に、今までにない「地域の支え合い活動」に挑む必要がある。</p> <p>②「高齢者が介護予防や健康づくりに取り組み、元気に長生きしています。」については、介護予防教室の参加者数が年々増加し、自主的な継続参加意欲も向上し、一定の評価はできる。今後は、継続実施型の介護予防教室、認知症予防事業に力を入れ、市民に対し、理解度を高めていく必要がある。</p> <p>③「高齢者が社会活動に参加したり、趣味に取り組んだり、生きがいをもって暮らしています。」については、シルバー人材センター事業の会員数がわずかに増加したものの、受託件数が減少しました。受託件数が減少した要因についてしっかり分析し、目標数をクリアーできるよう取り組む必要がある。また、ワンコインお助けサービス事業の受託件数が大きく伸びている。この事業の活性化は、「元気な高齢者」が、「支援が必要な高齢者」を支える仕組みが充実していることを意味するため評価できる。</p>

施策の進捗状況	B:目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり進行している。
部長評価	<p>介護保険および地域包括支援の事業を推進してきたことにより、高齢者に対する施策は充実しつつある。今後は「自助」および「互助」の部分に力を入れながら、高齢化対策を進めていく必要がある。</p>

事務事業一覧

総合計画	所管課	番号	事業名	人件費を除く 事業費(千円)	人件費(参考) (千円)	人工	評価 (担当者)	事業の 種別	新規 事業	達成 状況	市長マ フェスト	実施 計画
1-4	福祉課	6	地域福祉サービスセンター事業	11,098	577	0.06	A	オ	オ	B	3	○
1-4	福祉課	8	ボランティアセンター運営補助事業	1,400	769	0.08	B	オ	オ	B	—	○
1-4	福祉課	9	在宅福祉サービス事業	2,627	769	0.08	B	オ	オ	B	3	○
1-4	福祉課	10	社会福祉協議会運営事業	16,965	2,403	0.25	B	オ	オ	B	—	○
1-4	長寿課	1	老人福祉事業	81,246	14,003	1.90	B	カ	オ	B	3	○
1-4	長寿課	3	生きがいセンター管理運営事業	19,028	854	0.10	A	カ	オ	A	3	○
1-4	長寿課	4	高齢者健康と生きがいづくり推進事業	66	250	0.05	B	カ	オ	B	3	×